

# こすもす便り

第9号 (2017年7月)

## ◇保護者の皆さまへのお知らせ紙です◇

### ★ご挨拶

「お母さん頑張って、強くなって、子どものために」そう励まされながら頑張っているお母さん。母親だからといっていつもいつも強くなくても良いのです。人間は元々弱い存在だから助け合って生きているのですから。大切なのは疲れたとき、弱音を吐きたいときに相談できる仲間を持つことです。子育てが大変だとすればそれは世間の無理解と画一化された価値観で溢れている社会の仕組みによるものかもしれません。社会の価値観は私たちが気づかない間に見えない大きな力によって変化しています。流れ（変化）が早いときほど少し立ち止まってみる必要がありますね。

でも、どんな時代になっても人間は他者に働きかけることなく生きては行けません。その働きかけがゆがみ、相手への感受性が希薄になると自分の感情だけで完結させようとして行き詰まる話を良く耳にします。誰でも将来に希望が持てなかつたり限られた価値観の中でもがくこともあるでしょう。その時、頼る者があれば破壊的になるのを防いでくれます。それは家族であり仲間です。人間の生きる力の鍵はやはり「愛」なのではないでしょうか。

### ★笑顔で輝くコミュニケーション

多くの活動は、職員が意図した通りにはいかないものです。それは、子ども達が、私たちの想像を超えているという意味で、大きく裏切られることもしばしばです。そういう意味でも子どもは大人を育ててくれているのですね。子ども達の発達は様々な要因で一人ひとり違います。出来ることを肯定的に捉え、出来ないことを否定的に捉える二律背反ではいけません。出来ないのではなく自分の価値観と違う発想を受容できない大人の存在が発達の芽を摘んでしまうことはしばしば起こるものです。

先日は折り紙で扇子を作ったのですが、折り紙にデコレーションしている内に折りたたむのがもったいないからと、団扇に変更した子どもの「自分で考えた」という満足感が素敵な表情に表れていました。そのとき「今日は扇子を作るのだから折り曲げようよ」と誘うのはナンセンス。「いいね！」と共感すると次々に新しい発想が他の子ども達にも刺激を与え、その空間は笑顔でいっぱいになります。

笑顔は社会的な行動を誘発する効果があると言われています。活動のゲームや工作や音楽などそのほとんどは子ども達が笑顔になる要素を持ち、期待以上の笑顔が見られます。笑顔は友達や社会を共感・協調の心で繋ぐ側面を持っています。

世界的にも共通で重要な表情であることは間違いありません。笑顔は社会的な一面としてコミュニケーションにきわめて重要な役割を果たしているのです。

表情認知と表出が苦手だと言われている自閉症や発達障害のある子ども達の笑顔は、ポジティブな行動の時に断然多く見られているのです。

これからも、笑顔が輝く楽しい遊びを子どもたちから学んでいきたいと思えます。